

令和6年9月11日

各 位

一般社団法人 全国信用組合中央協会
全国信用協同組合連合会

第4回「しんくみブランド表彰」受賞先の決定について

信用組合業界の表彰制度「しんくみブランド表彰」の受賞先がこのほど決定いたしましたので、お知らせします。

今回の表彰では、全国の信用組合、協会及び信用組合役職員が取り組んだ多岐にわたる活動のなかから、大賞1先、優秀賞5先の活動が決定いたしました。

第4回「しんくみブランド表彰」受賞先

○大賞

信用組合部門	長野県信用組合（長野県）	知的財産活用支援「長野けんしんモデル」の取り組み
--------	--------------	--------------------------

○優秀賞

信用組合部門	茨城県信用組合（茨城県）	けんしん SDGs プロジェクト ～役職員全員で行う“フードドライブ活動”～
信用組合部門	第一勧業信用組合（東京都）	次世代を担う子どもたちの育成
信用組合部門	新潟県信用組合（新潟県）	SGM (Small Group Management) 活動
信用組合部門	広島県信用組合（広島県）	地域と共に歩むケンシン 芸術文化の振興活動に対する表彰事業
役職員部門	岐阜商工信用組合（岐阜県） 藪下 淳 氏	青少年育成支援活動（ボーイスカウト活動の指導者）、 社会福祉活動（社会福祉協議会の日常活動支援員）

信用組合は、営利を目的とせず、相互扶助（共助の精神）を理念として活動する金融機関です。地域経済の活性化や社会・コミュニティの課題解決に向けた取組み、各種の社会貢献活動等、相互扶助を具現化した活動に日々取り組んでおります。

「しんくみブランド表彰」は、これら信用組合業界の諸活動を多くの方に知っていただき、信用組合の基本理念である相互扶助と存在意義をより一層訴求することを目的に、令和3年度より実施しているものです。

【本件に関する問い合わせ先】	
一般社団法人 全国信用組合中央協会 ブランドコミュニケーション部 TEL : 03-3567-2452 (平日 : 9 : 00 ~ 17 : 00)	全国信用協同組合連合会 総合企画部 TEL : 03-3562-5115 (平日 : 9 : 00 ~ 17 : 00)

【大賞】

長野県信用組合（長野県） 知的財産活用支援「長野けんしんモデル」の取組み

長野県信用組合では、2017年度から、知的財産（知的資産や企業の強み等、広義の知的財産）について企業と議論を交わすことで、有効な課題設定が出来ると考え、知的財産を切り口とした取引先企業等の経営支援に注力しており、産・学・官・金が連携して取引先企業等を支援するプラットフォームである「長野けんしんモデル」を組成・確立してきた。

「長野けんしんモデル」は、プラットフォームを構成する各機関が連携し^{*}、大手企業の開放特許のマッチング、特許や商標等知財の権利化、製品のブランディング等を支援し、事業者の企業価値向上を図る事業である。

当組合は、「地域の魅力をプロデュースし、地域社会の価値創造に尽くします」という企業理念の下、本事業を通じた地域経済の活性化を最終的な目標に掲げ、本事業を無償（直接的に手数料収入等を得ていない）で行っているほか、事業者同士で取組事例の紹介や意見交換を行うための場として、成果報告会や座談会等も開催するなど、知財活用の重要性の普及にも積極的に取り組み、長野県内においては、「知財と言えばけんしんBANK」といったイメージを築きつつある。

過去2年間の「長野けんしんモデル」事業の枠組みにおいては計20社に対して開放特許のマッチング支援、知財権利化（特許や商標の出願等）のブランディング支援を実施し成果をあげており、本事業は、日本弁理士会が主催する「第7回知的財産活用表彰」（2021年2月）において、支援機関向けの最高賞である「知的財産活用支援大賞」を受賞しているほか、マスコミ各社でも度々取り上げられる等、信用組合のブランドイメージ向上にも大きく寄与している。

※INPIT長野県知財総合支援窓口、PATRADE(株)、(株)信州TLO、長野県よろず支援拠点、地元弁理士等

【優秀賞】

茨城県信用組合（茨城県） けんしんSDGsプロジェクト ～役職員全員で行う“フードドライブ活動”～

茨城県信用組合では、2022年から、『しんくみの日週間』*に合わせて『けんしんSDGs宣言』に関する取組みの一環として、フードドライブ活動を実施している。

当組合では、コロナ禍の中で「役職員全員で取り組める社会貢献活動」を模索していたところ、定期的に当組合農林水産部に来訪していた「NPO法人フードバンク茨城」（以下、「フードバンク茨城」）との接点があったことがきっかけとなり、地域の社会課題解決につながるフードドライブ活動を実施することとなった。

具体的な活動としては、食品ロスの削減およびコロナ禍により生活が困窮した方々を支援するため、全役職員から家庭で余っている食料品の寄付を募り、「フードバンク茨城」や「子ども食堂」の運営をサポートしている「認定NPO法人 茨城NPOセンター・コモンズ」へ寄贈している。食料品は、生活困窮者の自立支援制度の窓口となっている社会福祉協議会や市役所の社会福祉課、「子ども食堂」運営団体等を通じて活用されているなど、これまで、約4.3トン1万個を超える食料品が役職員から集められ寄贈している。

フードドライブ活動は、誰でもいつでも取り組むことができる活動であり、地域金融機関が率先して実施することにより、当組合役職員・役職員の家族・取引先と支援の輪が広がっていくことが期待されることから今後も継続して実施していく。

※信用組合業界では、9月3日を「しんくみの日」と定め、2002年度より、9月3日を含む1日～7日を「しんくみの日週間」として、社会貢献活動や日ごろの感謝を込めたさまざまなイベントを実施。

【優秀賞】

第一勧業信用組合（東京都） 次世代を担う子どもたちの育成

第一勧業信用組合では、「地域の子供たちは地域の大人で育てていく」との思いから、学校および地域の方々とともに、次世代を担う子供たちが地域のことをよく知り、地域に愛着を持ち、自分に何ができるか、どう生きるかを学びながら成長につなげることができるよう、学校への職業体験の場の提供など、様々な取り組みを行っている。

具体的な取り組みとしては、10年前から始めている「職業体験の場の提供」として、学校の授業においてお金のことや信用組合の役割を講義するほか、地元の小・中学校の生徒を招き、信用組合の実務体験やお取引先の工場見学等による職業体験の機会を毎年提供している。

また、地域課題応援定期預金として、「かんしん子供応援定期預金」の取扱いを行っており、子どもの育成を目的に毎年地域の小・中学校等に対して、定期預金残高の0.025%相当額の教育資材（書籍や体育用具等）の寄付を行っている。

その他、「子供たちの表現の場」として、生徒が1年かけて作成した絵画を地域との絆のシンボルとして当組合本店へ展示するほか、地域の小学校の授業で描いた絵をロビーに展示するなど、地域社会との交流を深めながら次世代を担う子供たちの育成のため、引き続き学校および地域の方々とともに取り組んでいく。

【優秀賞】

新潟県信用組合（新潟県） SGM（Small Group Management）活動

新潟県信用組合は、人口減少等の社会環境や金融環境の変化に対応し、地域との関りを高め、「広く深く」業務展開を行うため、2016年より、各地域の特性に応じた「狭域高密度」の営業活動を展開する「SGM活動」（Small Group Managementの略）を実施している。

本活動は、県内43店舗を10グループに編成し、各グループが地域の特性に応じた様々な活動を行うもので、活動当初はグループ毎に預金商品等の「限定商品」を販売するものであったが、2022年度から、各グループが「ソリューション活動（地域課題解決活動）」^{※1}と「地域貢献活動（SDGs活動）」^{※2}におけるテーマと活動内容を選定し、各地域における顧客の課題解決や、SDGs目標の達成に向けて積極的に取り組んでいる。

具体的には、主に地域毎のガイドマップやパンフレットのほか、特殊詐欺防止に向けた啓蒙用動画DVDの作成、清掃活動や植樹活動、地域見守り活動などのボランティア活動、世界遺産（佐渡島の金銀山）の魅力を発信する地域イベントへの参加など、各グループが地域に合った独自性のある活動を展開することで、きめ細かな営業活動を実践することが可能となるとともに、地域行事やボランティア活動への参加を通じて、地域との一体感を高めている。引き続き、必要不可欠な地域金融機関として本活動を積極的に展開していく。

※1：「ソリューション活動（地域課題解決活動）」は、各グループが地域の抱える課題から活動テーマを考え、そのテーマに沿って地域や取引先の課題解決を目的としたサポート活動を展開するもの。

※2：「地域貢献活動（SDGs活動）」は、当組合の経営理念とSDGs宣言に基づき、地域社会の持続的な発展のための活動を展開するもの。

【優秀賞】

広島県信用組合（広島県）

地域と共に歩むケンシン
芸術文化の振興活動に対する表彰事業

広島県信用組合は、組合創立30周年を迎えた1983年3月、「企業の社会的責任」を果たすべく、地域社会に対して有益な人材の育成と地域文化活動の一助となることを目的として、「一般財団法人ケンシン地域振興財団（以下「財団」）」を設立した。

当財団では、これまで40年間にわたり、芸術文化活動に対する諸活動及び調査研究に対する表彰事業として、広島県内の文化普及向上を目的に、優れた文化活動に対して、「県民文化奨励賞」の贈呈を行っている。

表彰にあたっては、広島県環境県民局（文化芸術に関する事業を所管する部局）が推薦する県内を活動拠点とする者（又は団体）のなかから受賞者を決定しており、これまで、学術、工芸、音楽等の各分野で活動する個人67名、12団体を表彰してきた。

また、上記目的に資する取組みとして寄付活動も開始しており、これまで広島県立美術館や中・四国のプロオーケストラである広島交響楽団に対して寄付をする等、広島県の文化芸術のさらなる発展に寄与している。

【優秀賞】

岐阜商工信用組合（岐阜県） 青少年育成支援活動（ボーイスカウト活動の指導者）、
社会福祉活動（社会福祉協議会の日常活動支援員）
籾下 淳 氏

籾下氏は、1999年から、青少年育成への支援を目的として地元のボーイスカウト団に入団し、その後は自身も指導者としてボーイスカウト活動に携り、団活動（イベント・キャンプ他）および下部の隊活動に対する後方支援（野外活動・募金・清掃・地域行事等活動）を実施している。

この活動は、1998年に長男が地元のボーイスカウトに入団したことがきっかけとなり、翌年に自身も入団し、以降は隊指導者、団委員、団育成会監事を務めるに至ったもの。

現在は、団活動を支援する育成会（指導者・保護者で構成）の監事として、毎年度、団・各隊・育成会の会計監査を担当している。

同氏は社会福祉活動も行っており、地元の社会福祉協議会（各務原市鵜沼第二地区社会福祉協議会）における「住民お互いさま活動」（地域困りごと支援）の「お助け隊員」（日常活動支援員）として、高齢者宅に伺い、身の回りの困りごとへの支援活動（清掃・除草・剪定・ごみ処分・簡易修理等の日常生活支援）を担っている。

社会福祉活動は、2017年に地元自治会の会長と、地元の社会福祉協議会の役員に就いたことをきっかけとし、以降、日常活動支援員を務めている。

以 上

< 参考 > 第4回「しんくみブランド表彰」について

1. 目的

信用組合、信用組合協会（地区協会および都道府県協会をいう。以下同じ。）および信用組合役職員が取り組んだ社会貢献活動、しんくみの日週間活動ならびに信用組合の本業に付随した地域経済の活性化に向けた取組み等、信用組合の基本理念である相互扶助（共助の精神）を具現化した活動のうち、趣旨や成果につき優秀なものを表彰する。

これにより、信用組合業界の諸活動を内外に認知させるとともに、ブランドイメージの向上を図る。

2. 表彰対象

- (1) 信用組合部門 信用組合、信用組合協会
※信用組合の営業部店単位での活動も含む。
- (2) 役職員部門 信用組合役職員
※信用組合内サークル・グループ、部署単位の活動も含む。

3. 選考方法

しんくみブランド表彰選考会にて厳正に選考のうえ、表彰先候補を選定し、全信中協理事会で表彰先を決定する。

4. 選考のポイント

以下の項目を総合的に判断する。なお、活動の内容がすべての項目に該当しなくとも、特定の項目において顕著な取組みが認められる場合、評価の対象とする。

- ①継続性、②革新性、③課題解決性、④コミュニティとの一体性、⑤話題性、⑥模範性

5. しんくみピーターパン大賞選考会 委員

- 中村 健 株式会社全国信用組合新聞社 顧問
- 伊藤 麻美 日本電鍍工業株式会社 代表取締役
- 柳沢 祥二 全国信用組合中央協会 会長
- 北村 信 全国信用組合中央協会 理事長、全国信用協同組合連合会 理事長
- 吉澤 守 全国信用組合中央協会 専務理事
- 濱田 秀夫 全国信用協同組合連合会 専務理事

※所属は令和6年9月現在、敬称略